

ディプロマ・ポリシー

音楽研究科博士後期課程 音楽芸術専攻 ディプロマ・ポリシー

修了に際し、以下のことが確認されることが必要である。

- 研究計画で策定した手順に則り、一定の研究成果を上げたこと
 - 各領域におけるきわめて高度な専門知識を修得し、明確な方法論を持って自立して研究を行う能力を獲得したこと
 - 音楽芸術表現領域の場合は博士論文と研究演奏発表または研究作品提出、音楽芸術運営領域の場合は博士論文において、実践的な研究と学術的な研究との有機的融合が達成されていること
 - 音楽を中心とする幅広い芸術領域における広い視野と高い識見を持ち、芸術文化の担い手として、また芸術分野の高等教育や研究の担い手として、社会的に活躍する能力を獲得したこと
- その上で、学科目等の試験および学位審査に合格しなければならない。

研究領域	ディプロマ・ポリシー
音楽芸術表現領域 声楽 器楽 作曲	修了に際し、以下のことが確認されることが必要である。 • 研究計画で策定した各自の作品研究、演奏研究、または創作技法研究において、一定の成果を上げたこと • 音楽とその関連領域についてのきわめて高度な専門知識と独自の優れた知見を獲得したこと • 音楽研究の基本的な手法や方法論を修得し、自立して研究を行うために必要な能力を獲得したこと • 博士論文と研究演奏発表または研究作品提出において、実技研究と学術的な研究との有機的融合が達成されていること • 広い視野と高い識見、そして優れたプレゼンテーション能力をもって、将来、芸術文化の担い手として、また芸術分野の高等教育や研究の担い手として社会的に活躍する能力を獲得したこと その上で、学科目等の試験および学位審査に合格しなければならない。

音楽芸術運営領域

舞台芸術政策研究

舞台芸術マネジメント

音楽療法

修了に際し、以下のことが確認されることが必要である。

- 研究計画で策定した各自の舞台芸術政策研究、舞台芸術マネジメント研究、音楽療法研究において、一定の成果を上げたこと
- 舞台芸術政策、舞台芸術マネジメント、音楽療法の分野におけるきわめて高度な専門知識と独自の優れた知見を獲得したこと
- 音楽を中心とする芸術文化を対象として学術的・学際的に研究するための様々な手法や方法論を修得し、自立して研究し実践する能力を獲得したこと
- 広い視野と高い識見、優れたプレゼンテーション能力、そしてリーダーシップをもって、将来、芸術文化および芸術分野の高等教育や研究の担い手として社会的に活躍する能力を獲得したこと

その上で、学科目等の試験および学位審査に合格しなければならない。